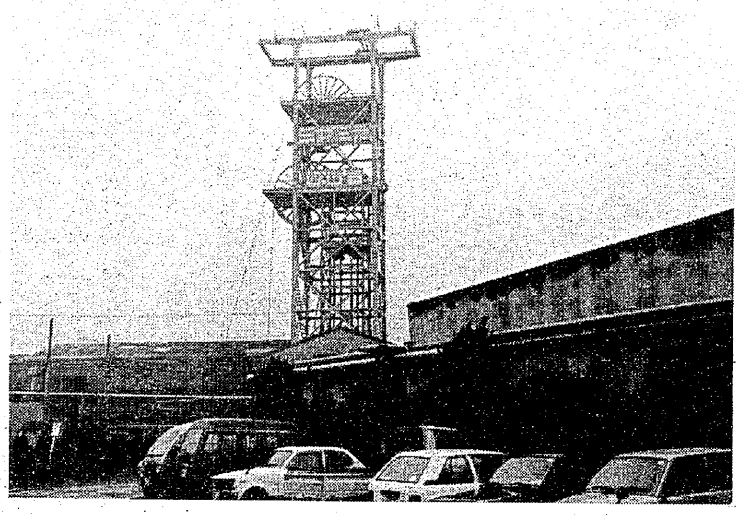
四山で吊天崩落災害

今後の対策などで団交開く

四月一日午後八時五十二分ごろ、四山鉱（松本広市鉱長）で約七十メートルにわたって払跡の吊り天が崩落、風圧によって払内で作業中の採炭員北原良友さん（34・大牟田市四山社宅八十六棟・脳内出血などで現在も重体）ら六人が重軽傷をおう重大災害が発生。この災害について三池労組では会社に申し入れをおこない四月七日保安団交を開きました。

災害現場は、坑口から一万五百五十四メートル、水面下三百四十八メートルの地点で、上層西七十卸西五片払で、払面長は百メートル、炭丈二メートルの払いで払開始は三月十三日。同払では払跡の天井落ちが悪く、吊り天対策が実施されていましたが、結果的に不十分な対策のために大規模な崩落を起こしたものです。

三池労組では災害発生後、状況の把握につとめるとともに、会社側から四月四日説明を求めましたが、今後の具体策を含めて申し入れをおこない四月七日保安団交を開きました。



吊り天崩落災害を起こした四山鉱

組合の申し入れと会社の回答（要旨）

冒頭、会社側から「第八次石炭政策が論議されているなかで、このように災害を起こして遺憾であり、申し訳ないと反省し、災害を撲滅することが第一義だと認識している」との表明があり、「①事故については対策をたてて実施していたが自然条件に伴うむつかしい判断があった。②連絡が遅れたことについては、事実を踏まえて検討し、今後は的確な情報を迅速にするようにする」との説明がありました。

組合側からは、①災害の経過について明らかにすること。②今回の災害について会社の考え方を明らかにすること。③吊り天対策の実施経過について明らかにすること。④今後の吊り天対策を明らかにすること。⑤災害発生時の連絡体制について明らかにすること。などについて回答を求めました。

会社側は、②については冒頭の発言どおりであるとし、⑤については冒頭の発言を補充する形で連絡系統を図示して、確報でなくても一時間を目途にしたいと回答しました。

さらに、②、③、④の回答について追及しましたが、当該部内の対策が提示され、今後の始発部対策は後日出すこと（九日に提示）になりました。なお、同払は監督局の許可により七日二番方から生産再開しました。

決意新たに——

故久保清氏追悼 八六春闘勝利決起集会開く

三池労組と主婦会は、八六春闘炭惰勢の中ではあるが、せめて人並みの要求を実現するために頑張ろう」と決意を表明。

つづいて平川主婦会長が決意を述べ、小野大牟田地評副会長、宮本社会党大牟田総支部書記長、松里共産党大牟田市議らの連帯のあいさつを受けたあと、参加者全員が焼香、さらに『がんばろう』を合唱、〝団結頑張ろう〟を三唱して終わりました。

三池闘争から二十六年を経て、その後の石炭産業の衰退と労働者のおかれている状態をみるとき、いまの〝石炭つぶし〟は当時からの課題であったことが明らかであり、むしろ想像以上のきびしさとなってきています。

港務所 第二次労働条件調整強行に時限スト

三池港務所の第二次労働条件調整についての中央交渉は、三月十九日に要求書を提出、二十二日現地交渉、二十七日から二十九日の三日間中央交渉がおこなわれました。

回答はなく交渉は決裂、港務所の組合員は四月一日抗議の一時間五十分の時限ストライキに突入しました。

会社の最終回答

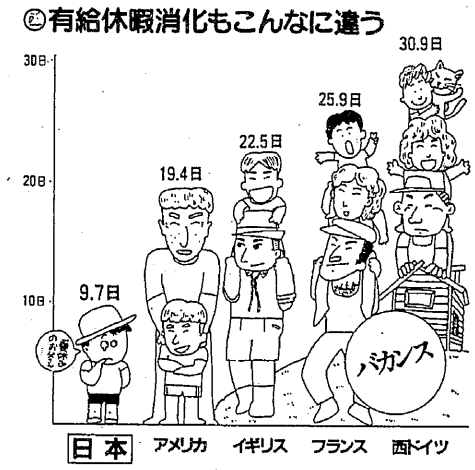
三池労組は、今回提案された労働条件調整は労働者に犠牲を強いるものだとして会社側を追及し、抜本的な改善を求めましたが、会社側は、提案事項は三井鉱山関連事業所の労働条件を統一するもので労働条件の切り下げではないとし、主張、一部の項目で前進案が出されましたが、全体として誠意ある回答はなく、①職能給修正財源について、一律加算額を各人の期末手当から取り崩し、個人の修正財源は別財源とする。②退職金の支給率について、二十五年勤続四七・〇を四九・〇に改める。③現在の再雇用者について、賃金、期末手当は八十%を百%とする。などで他は提案どおり。

あほ・だら

芝岡久友衛

グラフ解説 ⑥

86春闘の課題



○…有休消化もこんなに違い

有休の消化も日本と欧米では大差があります。ヨーロッパの有休消化は年間二十二～三十日間で、連続取得しゴージャスなバカンス。一方、日本はこま切れ使用で年間九・七日。年休消化で生活に余裕を戻しましょう。

炭鉱は〝豊かさ〟の犠牲

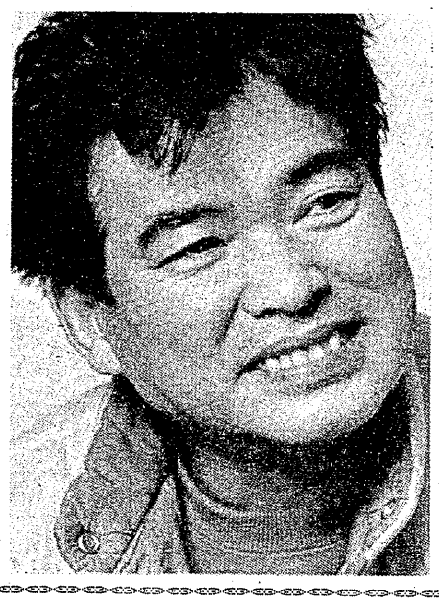
戦中から戦後にかけて、炭鉱の景気はそりゃあすごかった。私は北海道の美唄市に生まれたが、当時の農家の娘たちは炭鉱か国鉄なら、ちょっと顔が悪くても嫁にいく時代だった。

それがいまはまさかと思うほど変わってしまった。町がなくなり、みんないなくなって草ぼうぼうの山に帰ってしまった。時代の流れとはいえ、国内の炭鉱をつぶして、外国から石炭を輸入している現状は私にはイヤミにしかとれない。

いま、日本は豊かだという。でも炭鉱や国鉄は決して豊かではない。豊かなのは自動車や電気だけだ。むしろ儲かっている産業のため他の産業が犠牲になっているのに、それを豊かだといっているのはどこのどいつだ。

炭鉱や国鉄、それに農家の人たちの手に仕事が戻ってきてはじめて、景気はよくなったと喜べるだろう。

石炭輸入はイヤミ…？



レオナルド熊さん